冬場の省エネ対策

電気使用の特徴と節電・省エネポイント

中国電力株式会社

毎日の暮らしの中のさまざまな場所で電気は使われています。何気なく使っている電気の使い方を少し見直していただくことが、節電・省エネにつながります。

これから冬を迎えるにあたり、冬の電気使用の特徴とご家庭での節電・省エネのポイント、工夫などについてご紹介します。

○冬の電気使用の特徴

冬のご家庭では、昼間よりも温度が下がる19時ごろに暖房機器の使用などによって電気が多く使われます。ご家庭でよく使われる暖房機器から使い方を見直すことが、効果的な節電・省エネにつながります。

○主な暖房機器の節電・省エネポイント

〈エアコン〉

暖房時の室温は20℃を目安にし、必要な時だけの使用を心掛けましょう。設定温度を1℃下げたり、使用を1時間短縮するだけでも効果があります。また、暖房時には、①ドアや窓の開閉は最小限にする。②カーテンは厚めで床まで届くものを使用する。③冬でも扇風機で暖まった空気を循環させる。といった工夫を加えることで、さらに効果が上がります。

冬の暖房時の室温は20℃を目安に

年間で電気53.08kWhの省エネ
→約1,270円の節約
→CO_2約38.0kgの削減

外気温度6℃の時、エアコン（2.2kW）の暖房設定温度を21℃から20℃にした場合（1日9時間使用）

〈電気カーペット〉

設定温度は低めにし、部屋の広さにあった大きさのものを使用しましょう。また、断熱マットの上に電気カーペットを敷けば、床に熱が逃げにくく、暖房効率も上がります。

設定温度は低めに

年間で電気185.97kWhの省エネ

→約4,460円の節約
→CO_2約133.3kgの削減

3畳用で、設定温度を「強」から「中」にした場合（1日5時間使用）

〈電気こたつ〉

こたつ布団は上掛けと敷布団を合わせて使い、設定温度は低めを心掛けましょう。こたつは主に腰から下を暖める暖房なので、上半身が寒くなりがちです。カーディガンを着るなど工夫して体感温度をアップさせましょう。

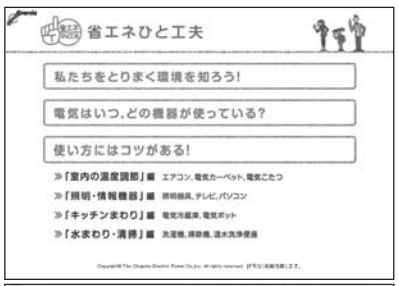
設定温度は低めに

年間で電気48.95kWhの省エネ

→約1,170円の節約
→CO_2約35.0kgの削減

温度調節を「強」から「中」に下げた場合（1日5時間使用）

その他にもさまざまな節電・省エネ事例について、中国電力ホームページ（http://www.energia.co.jp/）の「省エネひと工夫」や「エネサポートコム」に掲載していますので参考にしていただき、無理のない範囲で実践してみてください。



節電・省エネ方法等を紹介する情報サイト「省エネひと工夫」（上）、「エネサポートコム」（下）

IPCC 地球温暖化の最新知見

④ 温暖化による現象

世界平均海面水位19センチメートル上昇
海水の膨張と陸からの流入

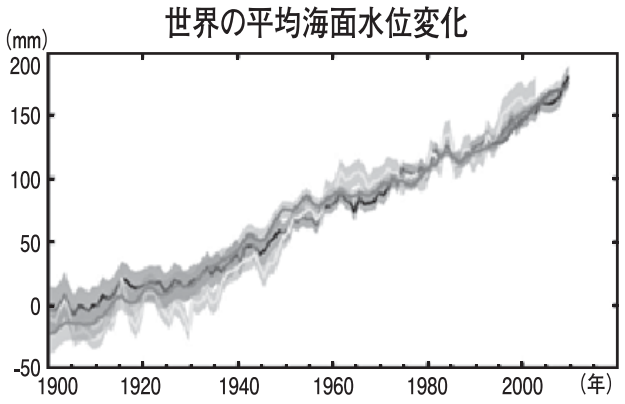
地球温暖化は、大気だけでなく海でも起こっています。『海の温暖化は海面付近で最も大きく、1971年から2010年の期間において海面から水深750メートルの層は10年当たり平均0.11℃昇温した。』とIPCC第5次報告書ではまとめられています。また、北極域の海氷面積は減少し続けています。陸の氷の融解について、ヒマラヤなどの山岳氷河はほぼ世界中で縮小し続けています。過去20年にわたり、グリーンランド及び南極大陸上の氷床の質量は減少しています。水温上昇による海水の膨張と、陸にあった氷が融けて海に流れこむことにより、海面水位が上昇します。世界平均海面水位は、1901～2010年の期間に、0.19メートル上昇しました。（図参照、線が複数あるのはさまざまな研究者の研究結果をまとめたためです。）

「わずか20センチメートル前後の上昇なんて大した変化ではない。」と考えられている方も多いと思いますが、この海面水位の上昇により、海岸に近い低地では、海水の進入による影響が考えられます。「海に沈む島」としてよく取り上げられる島国「ツバル」では、地球温暖化による海面上昇が重大な問題として議論されているところです。広島でも大潮の満潮時には厳島神社の回廊まで水位が上昇し、拝観ができなくなってしまうことが、ニュースになりますね。これらの対策を本格的に考えなければならないのではないでしょうか？

さらにIPCC第5次報告書では、「氷床がこのまま少なくなれば、より大きな海面上昇が生じるだろう。そして、この先千年、あるいはさらに長期間をかけてグリーンランド氷床が完全に無くなると、7メートルに達する世界平均海面上昇をもたらすだろう」という恐ろしい結果を予想しています。

地球温暖化による将来予測…気になりますね。次回は100年後の地球をどう見ているのか？について、IPCC第5次報告書の記述を

世界の平均海面水位変化



（広島地方気象台　観測予報課　岡崎賢治）

TEAM 地域エコアクションミーティング 最前線2

⑩ くれ環境市民の会

デポジットやカーボン・オフセット
さまざまな手法で啓発活動

9月27日（土）、呉ポートピアパークで「くれエコフェスタ2014」が開催され、家族連れなど多くの来場者で賑わった。

本フェスタは、くれ環境市民の会主催で平成15年度から開催され、今年度で12回目を迎える。出展ブース約30団体のうち、7団体が今年度新たに出展。イベント広場では、メダカ観察会やクロスバック製作、電気SL乗車コーナーなどが新設のコーナーとして導入された。また、野外ステージでは、「ごみのないきれいな街づくりポスター表彰式」や「緑のカーテンコンテスト表彰式」などが行われた。クイズラリーでは、自宅に眠っているおもちゃや不要な子ども用品を寄付してもらい、賞品とした。

また、本フェスタでは、呉市内で初めて「リユース食器+デポジット制度」が導入された。来場者に「ごみ減量」について実際に体験してもらうことで、環境意識の醸成を図ることを目的としている。

さらに、カーボン・オフセットの取り組みも導入され、温室効果ガスの削減にも貢献している。温室効果ガスの発生が想定される会場の電気利用と来場者の交通利用を、農場（ハウス栽培）におけるバイオマスボイラーの導入によりオフセットするもので、約8トンのCO_2を代替している。

くれ環境市民の会は、「昨年度より来場者は多い。今年度は、体験コーナーを設けたブースが多く、団体で持ち味を出しながら、環境啓発活動をPRしている。これからもさまざまな手法で啓発し、実践する仲間を増やしていきたい」と語った。

（脱温暖化センターひろしま）

同会のトレードマークのエコ屋台（上）、にぎわうポスター展示場（下）

○ デポジット制度とは ○

「預かり金」を意味し、お祭りなどでは、食品容器などに課金し、容器返却時に課金分を返却する方法で運用されている。